

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第49週 (12/3-12/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	49週	48週	47週	46週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市						千葉県 11/26-12/2 48週
		注意報	12/3-12/9	11/26-12/2	11/19-11/25	11/12-11/18	11/26-12/2 48週	
			49週	48週	47週	46週		
小児科	RSウイルス感染症		0	0	2	2	49	
			0.00	0.00	0.11	0.11	0.36	
	咽頭結膜熱		2	0	1	1	54	
			0.11	0.00	0.06	0.06	0.40	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	53	53	33	43	398	
			2.94	2.94	1.83	2.39	2.95	
	感染性胃腸炎		171	136	106	91	905	
			9.50	7.56	5.89	5.06	6.70	
	水痘		9	4	6	1	83	
			0.50	0.22	0.33	0.06	0.61	
手足口病		5	7	12	14	87		
		0.28	0.39	0.67	0.78	0.64		
伝染性紅斑	↓	23	24	12	16	155		
		1.28	1.33	0.67	0.89	1.15		
突発性発しん		6	5	8	10	55		
		0.33	0.28	0.44	0.56	0.41		
ヘルパンギーナ		1	0	0	3	16		
		0.06	0.00	0.00	0.17	0.12		
流行性耳下腺炎		1	1	1	0	12		
		0.06	0.06	0.06	0.00	0.09		
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	50	7	0	4	178	
			1.79	0.25	0.00	0.14	0.83	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	2	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	
	流行性角結膜炎		2	3	1	2	27	
			0.40	0.60	0.20	0.40	0.77	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	無菌性髄膜炎		0	0	0	1	3	
			0.00	0.00	0.00	1.00	0.33	
	マイコプラズマ肺炎		0	1	1	1	6	
		0.00	1.00	1.00	1.00	0.67		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0		
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0		
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(18件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	70歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	10歳未満	細菌の分離・同定 及び薬剤耐性の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	40歳代	抗体の検出
	女性	80歳代	細菌の分離・同定・ 薬剤耐性の確認及び び起因菌の判定	百日咳	女性	50歳代	抗体の検出
侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	50歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出

・第49週は、結核3件(165)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(19)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(23)、百日咳7件(212)、風しん4件(88)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第49週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週から横ばいで2.94のままとなった。過去10年の同時期と比べると多い。

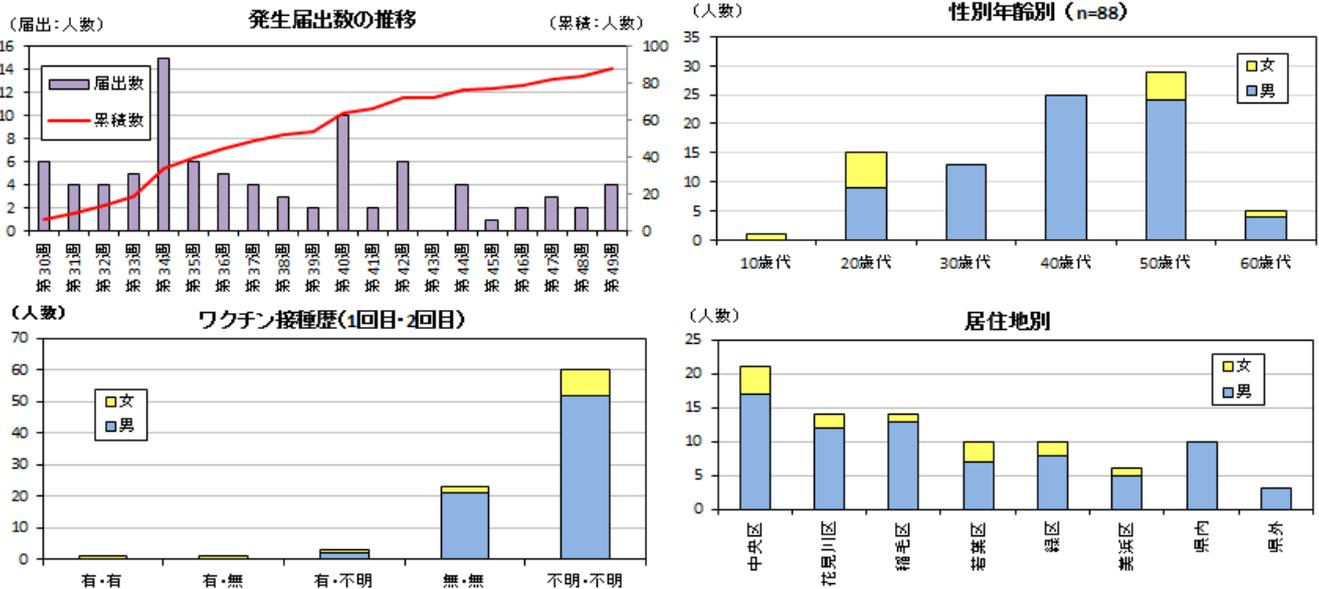
＜伝染性紅斑＞前週より減少し1.28となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。

＜インフルエンザ＞前週より増加し1.79となり、流行開始の目安とされる1.0を上回った。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

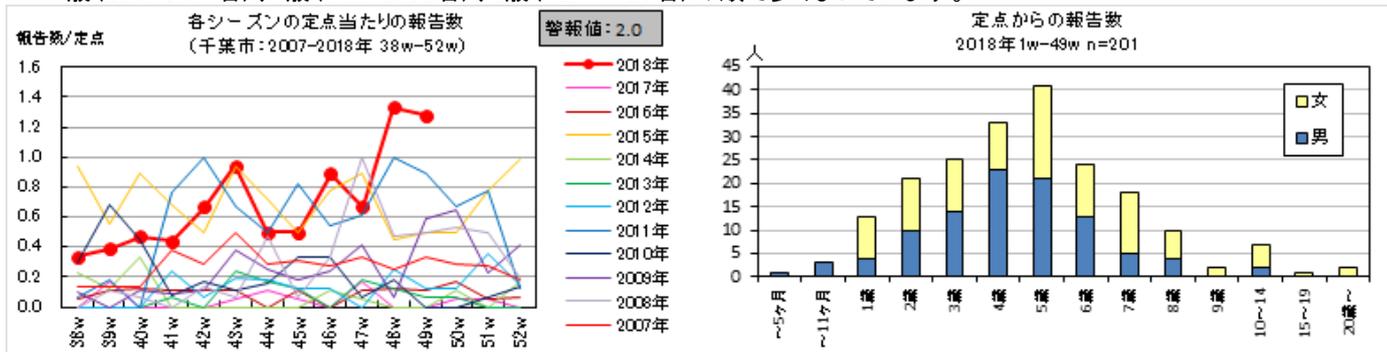
＜風しん＞

全国レベルの第48週の累積報告数は2454件で、昨年同時期と比べると30倍近くとなっています。都道府県別では東京都、神奈川県、千葉県順で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第49週は4件の発生報告があり、2018年の累計は88件となっています。性別は男性が85.2%（75名）、女性が14.8%（13名）で、年齢階級別は、50歳代（33.0%：29名）、40歳代（28.4%：25名）、20歳代（17.0%：15名）の順で多く、40歳代～50歳代の男性が中心となっています。居住地別では、中央区（23.9%：21名）、花見川区及び稲毛区（共に15.9%：14名）の順に多くなっています。患者におけるワクチン接種歴は、無し又は不明が9割を超えています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第48週は、過去10年の同時期と比べると最多となりました。都道府県別では宮城県、東京都、岩手県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第49週は前週より減少し1.28となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は緑区（3.0/定点）で流行発生警報開始基準値（2.0/定点）を上回り最多で、同区の3歳及び4歳で最も多く発生報告がありました。2018年1週から第49週の累積報告数は201件で、性別では男性が49.8%（100名）、女性が50.2%（101名）で、年齢階級別では5歳（20.4%：41名）、4歳（16.4%：33名）、3歳（12.4%：25名）の順で多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第48週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福岡県、北海道、埼玉県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第49週は前週より横ばいとなり2.94で、過去10年の同時期と比べると多いままとなっています。区別の発生状況は緑区（6.75/定点）で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第49週の累積報告数は470件で、性別では男性が53.8%（253名）、女性が46.2%（217名）で、年齢階級別では4歳（17.5%：82名）、5歳（14.0%：66名）、6歳（13.6%：64名）の順で多くなっています。

